

第4回大阪府特殊詐欺対策審議会の概要について

- 1 日 時 令和6年10月21日(月曜日)午前10時から午後0時ころまで
- 2 場 所 大阪府庁新別館北館1階災害対策本部会議室
- 3 議 題 特殊詐欺被害防止対策について
- 4 出席者 審議会委員7名全員が出席
- 5 事務局 大阪府警察、大阪府

(冒頭の事務局説明は省略)

【川本委員】

インターネットバンキングの被害が半分もあるが、その理解で良いか。

【原田会長】

そのとおり。

【川本委員】

令和6年のインターネットバンキングの件数でいうとかなりの差がある。

半分がインターネットバンキングの件数ということで良いのか。

たまたま1件、2件が高額であったということか、それとも、1件ごとの被害額が総じて大きいということか、どちらなのか。

【原田会長】

おそらくだが、インターネットバンキングでの被害の場合は、振込限度額いっぱいまで振り込まれている。

【事務局】

インターネットバンキングの被害は

①限度額が高い

②手法的に、お金を1つの口座に集められて振り込みさせられている

ことから、一件一件の被害が高額になっている。

【川本委員】

そうだと、身ぐるみ剥がされる感じになるのか。

【事務局】

持っているお金を全て一つの口座に集められて抜かれるので非常に高額になっている。

【原田会長】

私の知っている手口だと、金額を最初に確認されて、そのギリギリのところを振り込みさせられている。

振込ボタンで「振り込んでもらえる」と勘違いさせて犯行を行っている。

被害者は勘違いしたまま振り込んでいる。

手口も巧妙になっている。

特に、インターネットバンキングは振込限度額も簡単に変更できる。

ネット世界で完結するので、人の手が介在するタイミングがないというのは、詐欺犯からすれば、騙す人が少なく済む。

ただ、制限すると利便性が下がる。

こっちの方にだんだん手口が変わると思う

【木ノ平委員】

インターネットバンキングの状況を見て、昨年から被害が上がっていることがわかる。

特殊詐欺は70代、80代の女性が多いが、インターネットバンキングはどうなのか。

70代80代の利用は少ないように感じるが。

インターネットバンキング被害の詳しい資料はあるか。

【事務局】

調査後に回答する。

【原田会長】

思っている以上に被害に遭っているのではないか。

今は50代でも年齢が上がっていくにつれて、インターネットリテラシーの無い人が被害に遭っていく。

今は何でもダウンロードすれば使える時代。

逆に何にも知らない高齢者でもスマホを持つ時代。

最近では、強盗などの手口も問題になってきている。

ATMでお金が取れなくなると、最終的には強盗などの手口も増えてくるかも。

そうすると、いよいよ警察に頑張って貰わないといけなくなると思う。
私の知るところだと、私のゼミ生のおじいちゃんも被害に遭っている。
コンビニで2万円分のプリペイド型電子マネーを買わされて、その後、帰ってきたら「もう2万円いる」と言われたそう。
たまたまそのコンビニが学生のアルバイト先で、コンビニから学生本人に連絡がいき、お母さんを経由して本人に伝えて被害を止めた。
被害は2万円で済んだが、おじいちゃんは、まだ信じているそうで、おじいちゃんは家族に対して怒っていたとのこと。
手口は巧妙。
最初は2万円で何度も騙せたら金額を増やす。
みんなで騙されないようにしようというキャンペーンは多いが、騙された人は騙されっぱなし。
そういう意味では、被害を無くすためには、「仕掛け」がないとしんどいという印象。

【川本委員】

インターネットの記事で見つけたものを紹介させて欲しい。
コンビニのプリペイドカード購入の時に、「電子マネー購入の方で未納料金やウィルスの除去費用の方はこのカードをお持ちください」というダミーカードを置いているコンビニがある。
騙されている人は、ここで判別ができる。
騙されている方はカード購入に慣れていないような方が多いと思うのでダミーカードはなかなか有効だと思われる。
どこで騙されて、どこで行動して等という考えに基づいたアイデアなので、紹介させて欲しい。

【原田会長】

一定の効果があると思います。
確か千葉県が実施していて一定の効果はあったと聞いているが、その後広まらなかったのも、何か理由があるのかもしれない。
例えば、犯人が知ってしまうと、詐欺犯の方が対策を立ててくるとか。
これはこれで一定の効果はあると思うが、実際にコンビニに置けるかどうか問題。
実際にできるのか。

【石合委員】

フランチャイズなので、最終的にはオーナーさんの判断となるが、業態としては委託の販売になるので、店舗というよりは、アップル社や Google 社に許可をとる必要がある。
全体でやるのは難しい。
犯人が対策を取ることも考えられる。
一定の取組において、声のかけやすさという意味で実施している事例はあるが、全体となると業

界としてはやっていない。

発行業者が「そんなカードじゃない」と言ってくる可能性やその時に被害に遭う割合の話もあるので。

【原田会長】

最後の答申のところで「こんな対策がある」と入れれば、事例として知って貰える気がしている。色々な手があるので、打っていきたい。

【石合委員】

取組は素晴らしいが、詐欺と言われて逆切れされた時にどのようにすればいいかわからない。店員は第三者であり、外国人の場合もある。そのあたりの対策も必要。

【原田会長】

前回5万円の話になっていたが、学生から聞いた話は2万円。
2万円を何度も取りに来るような事例もある。
声をかける時に、根拠があった方が良くかなとも思う。
本先生、前回お休みされ、色々変わっているところもあるが、何か意見は。

【本委員】

今のところ大丈夫。

【水野委員】

委員の立場として話すと、私の印象ではインターネットバンキングと高齢者は距離があるものと思っていた。

だから、今回の審議会の中では、あまり関係がなく、次の議論になるのではないかと考えていたが、今回の改正の中で不審な取引の通報や取引限度額の制限等について議論している内容は、将来にわたってとても意義のあることだと感じる。

【川本委員】

高齢者もどんどんインターネットバンキングを使っている現状があるのではないかという印象。
最近では銀行に行ってもインターネットバンキングを付けろと言われる。
勧められるままそのままつけている人も多いのでは。
高齢者にインターネットリテラシーを学ぶ場所があるのかと思うし、リテラシーが無いから被害に遭うというのも違う気がする。
将来の課題というより、既に現在の課題となっているのでは。

【原田会長】

リテラシーについては、教育の段階からするのが効果的だが、被害を押さえるという意味では、別の問題。

インターネットで振込とか、今後銀行は進めていくのですよね？

【長江委員】

これから必須になると思う。

多くの金融機関が重要視している。

【原田会長】

この方法は続いていくということなので、そこに目をつけるというのは当然の流れかと思う。

【川本委員】

その安全装置はしっかりしておくべき。

例えば、車は利便性があるが、安全装置・公平性が発展してきたからこそ、社会に許容された。

【原田会長】

車はいろんな規制があるから、技術が発展したという見方がある。

規制を乗り越えるために技術が発展したと。

今回の話がそのまま当てはまるかわからないが。

【事務局】

インターネットバンキングの被害の179件中、65歳以上の高齢者が約4割。

男女比は半々。

被害額は500万円以上が44%と、ATMでの振込より高額になる傾向がある。

【原田】

やはり高齢者も使っている。

移動の距離もないのが高齢者にもやりやすい。

答申の中にはネットバンクについても触れるか触れないか考えた方が良いでしょう、できれば、将来的にはこうなれば良いなという内容でも入れたいと思っている。

公開の場はこれくらいかと思うので、非公開に移る。